

つなぐ

ふるさと宇和島／南予

新春号

2025 No.29

ご自由にお取りください



特集

宇和島 闘牛

● インタビュー「継続するというクリエイション」 ヴィオロン・ダングル オーナーシェフ 岡 寿彦

C o n t e n t s

- 01 エッセイ 「人生らしきもの」 吉田 淳治
- 02 インタビュー ヴィオロン・ダングル/オーナーシェフ 岡 寿彦
「継続するというクリエイション」
- 04 撮り歩きなんよ 「宇和盆地のマンモス」 写真家 北濱 一男
- 05 特集 宇和島 闘牛
 - 06 宇和島 闘牛 宇神雪斎
 - 07 宇和島観光闘牛協会 会長 中島充
 - 10 宇和島観光闘牛協会 盛福太郎/金澤和美
 - 11 宇和島市商工観光課 係長 梶山孝章
 - 12 闘牛グッズ
- 14 2024 ご縁で繋がる ふるさと宇和島ココロまじわうミニコンサート
- 18 中四国豆腐品評会 2024 木綿豆腐部門 愛媛県最高得点獲得！ 山田豆腐店
- 20 文ちゃんどとつぼの
予士線のあの人に会いたい 10 フリーアナウンサー 岡田留美
- 22 いのちのはなし
グーチョキパー 10 「みんなで楽しんでいます。男の料理教室」 毛利 弘子
- 23 宇和津彦神社の秋祭り（八ツ鹿踊り） 愛媛大学地域協働推進機構 准教授 大本 敬久
- 24 医療 「非アルコール性脂肪性肝疾患について」 沖内科クリニック 副院長 沖 良隆
- 25 食めぐり 美味しさを彩る「食器」 管理栄養士 柑橋ソムリエ シーフードマイスター 和田 広美
- 26 お気楽俳句 小野 更紗 / (絵) 律川 エレキ / おすすめ本 岩崎書店
- 27 つなぐ美術館 べにばら画廊/アトリエぱれっと
- 28 うわしん若手経営塾OB 若だんな 11 トータルリペア二宮 代表取締役 二宮 浩旭
- 29 斗酒百篇 / 4コマ漫画「きさいやくん」



表紙 / 「寒い夜に」
作 / ありま三なこ

プロフィール

1987年生まれ 愛媛県宇和島市出身
子供の頃から絵を描くことが好きで、大学の卒業制作で、しかけ絵本を作り、それから絵本に興味を持つ。2016年第8回 be 絵本大賞受賞、絵本作家デビューを果たす
現在は個展やイベントへの出品等で活躍中



白梅 (撮影/北濱一男)



つなぐ新春号 No.29

〒798-0041 宇和島市本町追手 2-4-10

0895-23-7000

年4回発行 (季刊誌)

配布先 / 宇和島信用金庫各営業店ほか

発行 / 宇和島信用金庫

編集・構成 / 業務推進部 広報文化室 川尻純滋

本誌掲載内容の無断転載を禁じます

吉田拓郎という昔のミュージシャンに「人生を語らず」という曲がある。で、同じ吉田である僕としては「人生」とまではいかなくとも、せめて「人生らしき」でも語ってみようか。なぜ普段口に出せないような、人生なんて大仰な言葉が浮かんだのか。むろん拓郎の曲からではない。

歳のせいと言ってしまえばそれまでだが、ひとつに、日常におけるテレビ番組の選び方が変わってきたのだ。我が家は地上波だけが「ファミリーヒストリー」「ドキュメント72時間」「映像の世紀」など「ドキュメント72時間」などを録画して観る。それらは、いわゆるつくりもののドラマではなく、歴史上の人物であれ、市井の人たちであれ、あるがままの振る舞いをストレートに映し出す。

もうひとつは新聞。2紙を取っていてかなり熱心に読むが、これまで読者投稿欄は飛ばしてきた。だのに目がいくようになった。まずタイトルや文面の色合いのようなものにサッと目を走らせ、ピンとくるとひとつふたつを読むようになった。これは僕自身が1年間に亘ってエッセイを寄稿した影響があるのかも知れないが、テレビにしる新聞にしる、この変化は、考えるに、僕が歩まなかつた他の人生が気になりだしたということであろう。

「ファミリーヒストリー」では芸能人のルーツをたどるわけだが、生まれ、死してまた生まれる、その邂逅の連鎖。偶然

人生らしきもの

吉田 淳治



撮影 筆者

か必然か、出会うべくして出会う縁に導かれ、そして今まさにテレビの中で現存する人が座っている、あたりまえの不思議。

「72時間」では、ひとつの現場にカメラを据え、そこで起きる様々な人間模様を定点観測する。人生の機微や彩り、ちょっとした真実と言っているものすら映し出す。人の生きてきた根っ子のようなものが、短い時間に圧縮されて見えてくる。

「バタフライエフェクト」は、歴史の中で影響を与えた人物や事象を、リアルな映像を持って訴えてくる。人の栄光と狂気。人間とはこうもなるか、ああもなるのか、と刺さってくる。人の想像が加わる、主にモノクロフィルムならではの強さが映し出すドキュメンタリー。

ここまで挙げたのはテレビ番組だが、新聞の投稿欄にも言葉を通し同じように伝わるものがある。なぜこういったものを、けっここのめりながら観たり読んだりするようにになったのか。おそらく僕は、この歳にして知らない人生を見たくなくなったのだ。

自分に振り向ければ、ただ絵を描いてきた長い日々の人生、といった景色が浮かぶ。だがその中にも、直接かかわった人や、たまたま道で擦れ違い何がかの印象を受けた人にだつて影響を受けてきたはず。でもそれはまた少し違う、映像の中のシーンや新聞の短い声。そこに垣間見えてくる心の匂いは、自分の外にある人々の人生だ。

生まれた環境や遺伝子に翻弄される人。また、自ら良しとしたものが厄介なものに転じて、その場に居続けざるをえない人々。中には幸いにも充足し輝いている人もいる。その悲喜こもごもの姿が愛おしさを伴って迫ってくる。

僕は人間以上に、取り巻く自然に触れながら生かしてもらっているという感覚が常に優先してあつたつもりだつた。しかし、生まれてこの方、十分に人を見、気にもしてきたのだ。

自然破壊や戦争と、果てのない人間の欲望や惨劇をいやというほど見せつけられる日常。そんな中で、会うこともない遠い人が生きるそこはかとなしいコマを見る。そして妙に心打たれ、ほろつと落涙することすらある。どこか素の人間の姿に触れることで、たまった胸のモヤモヤがほぐされるのかもしれない。ああ、人も捨てたものではないな、と珍しくもやわらかな心を持って肯定する。自分もまた、自分でしかない、せめて「人生らしき」くらいは歩んできたのだ。



画家 吉田淳治 よしだじゅんじ

全国各地のギャラリーにて個展を中心に活動。他に美術館等による企画展。画集3種、エッセイ集2種の刊行がある。「アトリエ堀端絵画教室」主宰。

<https://junji-yoshida.webhop.info/>

「継続するというクリエイション」

フランス料理 ヴィオロン・ダングル／オーナーシェフ << OKA TOSHIHIKO 岡 寿彦

ヴィオロン・ダングル（以下：ダングル）は、市内外から常連客が足しげく通うオープンして21年をむかえる本格フランス料理の名店だ。今回は、そのオーナーシェフの岡寿彦さん(57)に自身の半生を聞いた。

岡さんは、宇和島市で披露宴など大人数の宴会ができる岡会館の長男として生まれ、中学校では野球部、高校ではソフトテニスに汗を流す、ごく普通の学生で、家業を継ぐとか、そういう思いは特に無かった。

ところが、高校2年生の後半頃から、自然と調理学校へ進んで料理人になるんだと自分の中で決めていた。「稼業を継ぐ」という思いは全く無かったんですが、当時、芳村真理と西川きよしが司会を務める『料理天国』というテレビ番組をよく観ていて、それに辻調理師学校の先生が出ていてキッチンした料理を作っていたので道に進むなら此処、と決めていました」

入学した辻調理師学校では、現在のような明確なコース分はなく、和食や中華など全ての料理を学んだ。自分が進む道は「フランス料理」と決めていたので卒業後は迷わず辻調理師学校学校フランス校へ進んだ。

フランスでは、半年間、実践的なカリキュラムを学んだ後、街の人々は日本人なんて誰も見たことがない

ようなフランスの片田舎（この辺だと三間町のような街）の小さな*1）オーベルジュで半年間、住み込みで働いた。

帰国後は、学校の幹旋で東京の六本木の店を選んだ。当時はレストランに就職してもなかなか厨房に入ってもらえず、数年はホール（接客）をやらされる店がほとんどだったが、この店はすぐに厨房で働けるというので迷わず決めた。その後、何軒かの店で経験を積んでいたが、27歳の時、大きな転機が訪れる。

知人からの紹介で在フランス日本大使館（OECD 経済協力開発機構）のフランス料理のシェフとして渡仏することになった。（現在でも在仏大使館付けの料理人として働くのはハードルが高い）幸い、在仏経験があったので言葉には苦労しなかったが、仕込みの店探しには苦労した。今でも、フランスで店を出すとしても大丈夫なくらい食材の店は熟知してます」

休日の楽しみはというと、街を散策して気になった店で食事をしている。本場の料理や店を貪欲に吸収した。また、大使が一時帰国する時は、三ツ星レストランを紹介してもらって厨房で働かせてもらったりもした。

2年半の任期を終え、フランスから帰国した後は、1年ほど実家の手伝いながら自分の店を出そうかと考

*1) フランス語で「レストラン付きの宿」を意味し、宿泊施設を備えたレストランを指す

えていたところに、お世話になった元フランス大使から「オーストラリア大使になるので来てくれないか」と誘われて、オーストラリアには全く興味は無かったが経験を積もうと思いついて2年半働いた。

帰国後は、1年間友人のレストランを手伝った後、2003年に店を開業することになる。店名は、フランス大使館時代、よく通る通りにオープンした店名が「*ヴィオロン・ダングル」で、響きが好きだし辞書にも載るような言葉だったので迷わず自分の店の名前に決めた。

「オープン当初、店が暇な時、『パスとかピザやったらもつとお客さんが来るの』とか『フイスは無いのか』とか色々言われました。そもそも、フランス料理は、服装は？ とか、ナイフ、ホークの使い方は？ フイシは？ とか、色々な意味で敷居が高いイメージがあるんですね。非難を恐れずに言えば、松山市でさえワインバーばかりで、ちゃんとしたフランス料理の店が無いのは『フランス料理の難しさ』にあると思います。私も店を出す時、当時すでに都会で流行っていたワインバーにしようか迷ったんですが、そうしてしまつと、ちゃんとしたフランス料理をつくるのがしんどくなるな、もつと歳をとってからもできるな、と思つたんです」

*マンレイの代表作名でもある「アングルのヴァイオリン」という言葉には、フランス語で「趣味・余技・へたの横好きという」という意味の慣用句でもある

今、全国で高い評価を受ける、すし店やフランス料理店の主流は「おまかせ」だという。宇和島の片田舎で、ただでさえレアな食材の頻度の高いフランス料理店で様々な嗜好の客に100%対応し、フードロスにも配慮していくのは至難の業だ。

18歳で料理の世界へ飛び込み、本場フランスも含め、海外での貴重な経験を経て地元宇和島に自身の店をつくり、20年余り経営してきた岡さんだが、自身が追い求めるフランス料理と地方でのギャップの大きさを痛感している。

かつて、ダングルで食事をした客がSNSに書き込んだ一文が印象に残る。

「こんな田舎のフランス料理店でこれだけの食材を用意し、最高の料理を提供しているのには驚いた！」

岡シェフのプライドとフランス料理愛に満ちた渾身の料理をぜひ味わっていただきたい。

インタビュー・構成／川尻純滋

ヴィオロン・ダングル
宇和島市鶴島町4-10 TEL.0895-26-2344
定休日：水曜日
【ランチ】11:30～13:00 (L.O)
【ディナー】18:00～20:00 (L.O)



〈プロフィール〉

1967年宇和島市生まれ。宇和島東高商業科卒。大阪阿倍野辻調理師専門学校卒。同校フランス校(リヨン)卒。帰国後、都内フランス料理店数店に勤務。27歳の時、在フランス OECD 大使公邸料理人、在オーストラリア大使公邸料理人を経て2003年ヴィオロンダングルオープン。現在に至る。

撮り歩きなんよ

北濱一男が撮りためた南予の風景



伊予石城駅から徒歩3分の所にあるわらマンモス

宇和盆地のマンモス

西予市の宇和盆地は県内有数の穀倉地帯で昔から稲わらで作った「わらボッチ」や「わらぐろ」が整然と並び宇和盆地の初冬の風物詩になっていましたが、近年、機械化が進み姿を消していました。そんな中、西山田の上甲清氏らが「わらぐろの会」を立ち上げ、「わらぐろ」制作をして自分の田んぼに並べ、ライトアップをしてからは、県内外からカメラマンが来るようになりました。その後2011年に「れんげまつり」を盛り上げようと予讃線伊予石城駅近くに武蔵野美術大学と地元有志が協力して、わらのマンモスを制作したのが始まりで、今は地元有志が「わらマンモス」や「わらぐろ」を制作しているようです。



宇和盆地に霜がおりの寒い朝は、日の出とともに霜が霧のように湧き上がり幻想的な風景をみることができます。



北濱 一男 写真家

1945年生まれ 宇和島市在住 学生時代からカメラをはじめ、本格的な写真歴は約20数年 奈良県明日香の写真家 上山 好庸氏に師事

「撮り歩きなんよ」(ブログ) <http://uwatu.blog135.fc2.com/>



A close-up photograph of two black Japanese fighting bulls (Ushiwaikō) in a dirt arena. The bulls are facing each other, with their heads touching. One bull's head is in the foreground, looking towards the camera, while the other is slightly behind it. A man with glasses is visible in the background, looking at the bulls. The arena is enclosed by a metal fence with a yellow and white background.

特集

宇和島

闘牛

宇和島 闘牛



かつて宇和島市の代表的な闘牛場だった和霊土俵での取り組みの様子（撮影年不明）写真提供／林 比佐美

闘牛とは

一般に「闘牛」といえば、スペイン、ポルトガル、メキシコなどの人間対牛の闘いをさすが、日本では牛対牛の闘いである。牛対牛の闘牛は、日本のみならず、韓国、東南アジア、スイス、アラビア半島のオマーンでも開催されている。

牛に限らず、角のある動物はすべて闘う。山羊もそうだし、鹿もそうだ。カブト虫のような昆虫も闘う。本能・習性によって、武器である角を突き合わせる。牛対牛の闘牛は、牛と牛とが闘う姿を見た人間が、これを習慣化・娯楽化したものであろう。

日本の闘牛の起源は、牛が農耕や運搬のために用いられるようになった平安時代からと考えられる。平安末期の絵巻物「鳥獣戯画」(国宝)には牛と牛との闘いが描かれている。

日本の闘牛

現在、闘牛は岩手県の久慈市、新潟県の小千谷市、旧山古志村(現・長岡市)、島根県の隠岐の島、宇和島市、鹿児島県の徳之島町・天城町・伊仙町、沖縄県のうるま市に伝承されている。なお、東京都の八丈島でも闘牛が行われ、「牛相撲」と称して観光化されていたが、昭和50年代に消滅した。

久慈市の闘牛は、元々は運搬用の牛の力競べであり、越後古志郡の闘牛は神事であ

る。いずれも勝敗を決することなく、引き分けにする。越後闘牛は千年以上の古い歴史があるといわれ、滝沢馬琴の「八犬伝」にも登場し、国指定重要無形民俗文化財である。

隠岐の島以南の西日本の闘牛は、勝負をつける。隠岐の島では闘牛を「牛突き」といい、約八百年前、隠岐へ配流となった後鳥羽上皇をお慰めるために始まったとされる。鼻綱をつけたまま対戦させるのは、上皇に危害がないようにという配慮の名残りという。

徳之島では、古くは「牛オーシ(牛合わせ)」といい、「砂糖地獄(薩摩藩によるサトウキビの栽培強制及び砂糖の過酷な徴収に苦しむ島民のわずかな娯楽であった。)

沖縄の闘牛は「ウシオーラセー」といい、起源・歴史は伝わらないが、非常に人気があり、若い女性ファンも多い。徳之島、沖縄、いずれも闘牛大会が盛んで、こどもにも大人気。サッカー少年や野球少年より、将来は闘牛のオーナーになりたいという闘牛少年が多いという。衰亡の危機にある宇和島闘牛からすると、なんとも羨ましい話である。



うがみ せつさい
宇神 雪斎
作家・音楽評論家



南伊予の闘牛

南伊予地方の闘牛の起源については、17世紀後半、旧西海町福浦にオランダ船が漂着し、これを救助した漁民に2頭の牛が贈られ、この2頭がたまたま格闘したのが始まり、という伝承がある。旧御荘町、旧城辺町は「闘牛発祥の地」と名乗っていた。

余談だが、銘菓「唐まん」の清水閑一郎本舗（廃業）の「闘牛もなか」は、リーフレットにイラスト付きでオランダ船漂着説が紹介され、筆者はこの説を信じていた。しかし、どう考えてもオランダ船漂着説はありえない。なお、平成30年発行の『愛南町誌』には「闘牛発祥の地」の記述はない。

御荘組外海浦の庄屋二宮家が明治になって小幡と改姓し、この小幡家（現・愛南町深浦）が肉牛としての牛の飼育を地域に奨励した。これにもなつて闘牛も行われ、闘牛大会もしばしば開催された、というのが歴史的事実である。南宇和郡の肉牛は品質がよく、「牛肉の大和煮」の缶詰が商品化され、日露戦争では、前述した「清水の唐まん（缶入り）」と「牛肉大和煮」が、前線の兵士に支給されたという。

宇和島藩の記録としては、安政3年8月20日、宇和島藩の郡奉行比企藤馬・井関又衛門・須藤段右衛門の連署で、野村組代官と庄屋に宛てた文書がある。

「最近、牛突き合わせを頻繁に催し、勝負を争い、そのため牛の価格が高騰し、出費も多くなり、生活を圧迫していると聞き及ぶ。

このままでは（百姓は）先々難渋することになる。風俗にもよろしくない。以後、みだりに牛突き合わせをしてはならない」という闘牛禁止令である。文中に「風俗宜しからざる」とあるのは、賭博のことであり、人々が熱中したのは闘牛が賭博だったからである。この禁止令はあまり厳格なものではなかったようである。というのも、

33年後の明治22年、伊達宗紀（七代藩主・春山公）の百歳長寿祝賀行事として、茶会書画展、神楽、稚児行列、花火大会のほか、闘牛大会も開催されているからである。その後、闘牛の規制・禁止が繰り返されたが、庶民の闘牛熱はきわめて盛んで、大正時代、昭和初期には最盛期を迎えた。本格的な和霊土俵のほか、山裾に「突きあい駄馬」とよばれる簡易な闘牛場が10ヶ所以上も設けられ、観客は弁当や一升瓶を持参して闘牛を楽しんだ。

大正14年11月に鶴島大社奉祝十周年成典記念式典などを撮影した記録映画「大祭の宇和島」の一幕



昭和戦後の宇和島闘牛

昭和23年、連合軍総司令部（GHQ）の命令で闘牛は禁止されたが、隠岐、宇和島、新潟の闘牛関係者の熱心な陳情により、2年後には解除された。

昭和23年から翌年にかけて、獅子文六の長篇「てんやわんや」が毎日新聞に連載され、作中に旧津島町の闘牛が登場した。昭和25年には松竹で映画化され、岩松で闘牛の口ケがあった。小説も映画も大ヒットし、闘牛が注目を浴びる。また、井上靖の短篇「闘牛」は昭和25年下半年の芥川賞受賞作で、作中、宇和島市はW市と書かれているが、大阪毎日新聞社主催の西宮球場での宇和島闘牛の遠征興行を描いている。



紙テープで祝福される牛（和霊土俵 撮影年不明）写真提供／林 比佐美

こうしたことから、宇和島の闘牛は他県の闘牛よりも全国的に知名度が上がった。一方、農業の機械化と都市化がしだいに進み、闘牛は衰退し、昭和30年春の和霊土俵場所を最後に、闘牛大会は終息した。

宇和島市の闘牛運営

昭和34年、闘牛復興の気運が高まり、有志によって大会が復活した。宇和島市は昭和42年度から闘牛助成金の交付を開始し、初年度は25万円だったが、飼育牛が増え、飼育者（牛主）が増えるにつれ、増額された。

昭和45年から国鉄が「デイスカパー・ジャパン 美しい日本の私」という旅行キャンペーンを始め、四国も「青い国 四国」というキャッチコピーで大々的に宣伝した。バスを連ねての観光ツアーも盛んになり、道後温泉と足摺岬の中間に位置する宇和島にも観光客が押し寄せた。もともと、宿泊は少なく、昼食場所、凸凹（多賀）神社観覧、和霊土俵での闘牛観戦が多かった。

この動きに合わせ、宇和島市は闘牛による観光振興を図り、昭和50年3月、全国にさがけて全天候型・ドーム式の市営闘牛場をオープンさせた。総工費1億6千万円。中心市街地には適地がなく、天満山（丸山の山頂を開削して建設し、近くには運動公園、国民年金保養センター、南側の中腹には弓道場も開設された。



激しい取り組み 撮影／北濱一男

市宮闘牛場の開設にともない、宇和島市は広く牛主の参集を呼びかけた。この頃は、市内の柿原、伊吹町、和霊町、丸穂町、愛宕町、野川、妙典寺前、戸板口、山際、川内などでも闘牛が飼育されていた。市の呼びかけに応じることなく、既存の和霊土俵に拠る牛主もかなりいた。以後、長きにわたって市宮闘牛場と和霊土俵の闘牛が並存した。

市宮闘牛場は助成金による厚遇により、旧宇和島市、旧吉田町、旧三間町、松野町、旧広見町、旧宇和町、旧野村町、旧御荘町、旧城辺町、旧一本松町などの牛主も参加し、大いに隆盛した。

大会は年10場所開催され、観光客向けの「観光闘牛」（2頭を5分間闘わせて引き分けにする）も年間2百回を超えた。今にして思うと、異常なほどの闘牛ブームで、牛



昨年10月の秋場所には約1700人の観客が熱戦を楽しんだ

も牛主も増える一方、闘牛助成金は昭和55年度からは1千万円となった。

雨天対応・収容人員3千人の闘牛場では、歌謡ショー、プロレス、女子及び小人プロレス、大相撲、大学相撲などが開催され、テレビドラマや映画のロケもあり、多方面に活用された。設計も優れており、小規模な改修はあったが、台風や地震にもよく耐え、半世紀を経てなお健在である。

宇和島闘牛の現在と将来

文化庁は平成7年、「南予地方の牛の突き合い習俗」を、「記録作成等の措置を構ずべき無形の民俗文化財」に選択した。「やった、闘牛が無形文化財になったぞ」と喜んでいた人も多いが、指定文化財ではなく、「闘牛はやがて消滅する。消滅する前に闘牛について記録を残しておきなさい」ということであった。

令和の現在、闘牛が宇和島を代表する観光資源であることに変わりはない。しかしながら、牛も牛主も激減し、闘牛大会は年4回となった。闘牛大会は観客も多く、昔と比べるとファミリー層が増え、こどもや若い女性もいる。とはいえ、闘牛は永久に不滅ではない。

好むと好まざるとに関わらず、筆者は宇和島市の闘牛運営に関わってきた。嫌なことや辛かったことばかりで、闘牛への思いは複雑である。ではあるが、叶うことなら死ぬまで闘牛の消滅は見たくないと願っている。

闘牛ファンに喜んでもらえる宇和島闘牛にしたい！



愛牛、泰東隼彩とのツーショット



昨年の秋場所で勢子をつとめる中島さん



牛舎の前で

昨年春、宇和島市観光闘牛協会の新会長になった愛南町の中島充さんにお話を伺った。

中島さんの家は祖父から3代続く牛主で、12歳のころから闘牛に関わっている。中島さんが子どもの頃は、各農家には農耕用の牛が飼われていて、その牛の中から良い牛を闘牛に出していたが、今は、主に肥育用の牛の中から闘牛を見出すか、沖縄や徳之島から闘牛用の牛を購入しているという。

中島さんが飼育しているのは泰東隼彩(たいとうはやと)と泰東高力(たいとうこうりき)の2頭。飼育の苦勞を聞くとき、時間と労力に加えエサ代の負担が大きい

という。かつて3頭飼っていた時には、冬場のエサ代が月10万円ほどかかっていたという。

中島さんが会長になって、まず取り組んだのは、会員間のコミュニケーションの円滑化で、それまで電話やファックスでしていた事務連絡をSNSを活用するようにしている。また、今年にはコンビニで前売り券の購入ができるよう準備を進めている。

ファンあってこそその闘牛なので、牛を増やし(かつて60頭登録があった牛も現在は34頭)、人気牛と良い番組(取組み)をつくっていききたいと、意気込みを話してくれた。

中島 充 なかじま みつる 宇和島観光闘牛協会 会長



鹿児島式の牛舎で愛牛「闘勝凜丸」とカメラにおさまる盛さん



闘勝凜丸と高校生の兵頭星良さん

盛 福太郎 もり ふくたろう 宇和島観光闘牛協会 監事

宇和島市観光闘牛協会で監事をつとめる鬼北町の盛福太郎さんは、日本一闘牛が盛んな地域のひとつに数えられる鹿児島県徳之島出身だ。

闘牛が盛んな徳之島から、どうしてこの地に来たかと言つと、「闘牛は続けたいけど島の外にも出たい」と考えていたところ、当時、鬼北町で闘牛を事業のひとつとしていた現在勤めている会社のことを知り、迷わずこの地に移り住んだ。その後、会社が闘牛事業を止めた後も会社の牛舎を借りて自費で闘牛を20年間続けている。

365日、手のかかる牛主をやり続けるモチベーションは「勝利の瞬間のため」と言い切る。



強い牛を育てる為には、まずその牛の素質を見極めること。そして、牛の個性に合わせて独自のやり方で強い牛に育て上げる。そうやって丹精込めて育てた闘勝凜丸は今では横綱だ。

令和7年正月場所（1月2日）では6頭の横綱で争う重量級チャンピオン戦に挑戦し、新チャンピオンを目指して準備に余念がない。（取材：11月16日）



愛牛「ジュンギ」とご主人の慎也さんと息子の緑夢くん

息子の緑夢くんも慣れたもので、ジュンギの周りをウロウロしていて、和美さんから「後ろにおったら蹴られるで」と言われても動じません



金澤 和美 かなざわ かずみ（ご主人の慎也さんは、宇和島観光闘牛協会 監事）

元々、ご主人の祖父が牛主で、嫁いだ後、思い立って牛主となったという。

現在、沖縄生まれの「ソン・ジュンギ（和美さんが韓国ドラマが大好きなので）」10歳と徳之島生まれの「孫全（ソンゼン）」11歳の2頭の牛を飼っている。

2頭もの大きな牛を飼う苦労を聞くと、旅行を含め家を空けることができないのは当たり前。夏はエサとなる草が豊富にあるが冬場、草を確保するのに苦労するというが、「ずっと牛が居るのが当たり前

よし、好きでやっているのだから苦労とは全然思っていない」と和美さん。

楽しみは、もちろん勝った時だが、「ジュンギ」は軽量級なので、なかなか取り組み相手が見つからないらしい。

今後は、もっと闘牛が盛り上がりつつ女性ファンが増えてほしいという。



追憶の父と宇和島闘牛。そして、熱狂へ



かつて亡父が飼っていた牛がモデルの宇和島駅前の闘牛モニュメントの前でお決まりのポーズを決める梶山さん「ギューとギューでギューギューと！」

それというのも、梶山さんの亡父もかつて博労（牛の仲買人）として全国を飛び回り、牛主であり勢子も担うなど、全方位的に闘牛に関わっていた。しかし、梶山さんが幼いころ他界して、闘牛の記憶はほとんど残っていない。と言っより、自分には関係のない世界として距離を置いていた。

そして、否応なく担当することとなった全国闘牛サミットを介し、亡父の面影を見つけていくことになる。

2年前の着任早々、当時アナウンサーを務めていた坂本さんは、亡父のことを「良い牛飼いでいい勢子をされよった」と懐かしんだ。そして、JR宇和島駅前にある闘牛モニュメントのモデル牛も亡父が飼っていた牛だと、この時初めて知った。

た男性が、たまたま亡父と約40年来の商売仲間であった話を聞けたり、また、昨年の新潟のサミットでは、牛が一番少なくて大変な時に亡父が届けた牛で助けられたと聞かされたり。闘牛文化が残る全国で闘牛を介して亡父の足跡を感じられる事は、何よりうれしくもあり、自身の記憶の隙間を埋めるタイムリープのような不思議な感覚だと語る。

梶山さんが闘牛大会で闘牛の呼び出しに加え、対戦中の分かりやすい解説で「闘牛MC」と呼ばれるきっかけとなったのが、宇和島での闘牛サミット記念大会の封切戦で、沖縄闘牛アナウンサーとして有名な伊波大志さんが特別に務めた実況に衝撃を受けたことだった。それはまるで格闘技の実況のようでエンターテイメント性があり、なめらかで、何より分かりやすかった。その時、これを宇和島に移植できれば、闘牛のポテンシャルを最大限に引き出せると確信したという。

以降、どうやら分り分りやすくと闘牛を観客に伝えることができるか、自分なりに試行錯誤してきた。

事前に牛の戦績や体調などを十分頭に入れること、闘う牛の見分け方や激しく動く状況を瞬時に分かりやすく伝えることに苦心している。加えて、伝統的な化粧まわしや、取組表、牛主の横顔など、ストーリーを伝えながら、宇和島闘牛ならではの魅力を伝える。

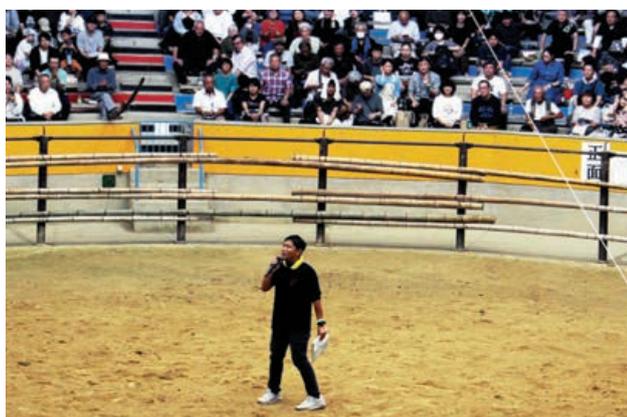
梶山さん曰く、近年、闘牛場にはファミリーやカップル、女性をはじめ、初めて訪れるライトな客層が増え、コロナ禍で瀕死の状態だった宇和島闘牛が息を吹き返しつつあるという。そんな中、一番の特等席で観客と一体となり闘牛の素晴らしさを伝えることは大きな喜びだという。

「どうやら自分にも牛好きの血が流れていたようです」と照れくさそうに笑う梶山さんとともに、そのポテンシャルを開放しようとしている宇和島闘牛が歩む未来に今後とも注目だ。

宇和島市商工観光課の梶山孝章さんは、闘牛大会で進行・実況・解説を一手に務める人は彼のことを「闘牛MC」と呼ぶ。今再び熱狂が渦巻く宇和島闘牛における中心人物の一人だ。2年前、宇和島市で全国闘牛サミットが開催された年に闘牛との関りを再び持つことになったが、それは、亡父の導きのような、運命的なものを感じているという。

2年前の着任早々、当時アナウンサーを務めていた坂本さんは、亡父のことを「良い牛飼いでいい勢子をされよった」と懐かしんだ。そして、JR宇和島駅前にある闘牛モニュメントのモデル牛も亡父が飼っていた牛だと、この時初めて知った。

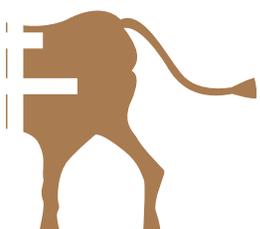
宇和島での翌年、徳之島で開催された闘牛サミットでは、立ち寄ったラーメン屋で宇和島から来たと告げたところ、隣に座つ



昨年の秋場所で大観衆の中会場を沸かせる梶山さん

梶山 孝章 すぎやまたかあき 宇和島市産業経済部 商工観光課 観光係長 闘牛MC GYUGYU

目



ブ

ン

ズ



■ 闘牛タオル 600 円 (即売所) *赤・白



■ 闘牛突き合い ミニ 880 円
(即売所・シロシタ)



■ 横綱牛 660 円
(即売所・シロシタ)



■ 陶器闘牛置物
3,500 円 (闘牛場)



■ 闘牛饅頭
(8 個入) 1,200 円 (4 個入) 500 円
(即売所・シロシタ)



■ 闘牛土鈴 700 円 (即売所)

之内 5-1-4 ☎ 0895-49-5700 (畦地美) 畦地梅太郎記念美術館 宇和島市三間町務田 180 ☎ 0895-58-1133

サイト <https://www.tougyu.com/>



■ 宇和島観光ガイド <https://www.uwajima.org/event/index3.html>





■ 闘牛Tシャツ 2,500 円 (シロシタ)
*色: 紺・灰



■ 闘牛Tシャツ 1,800 円 (即売所)
*色: 黒・灰・赤



■ 闘牛ステッカー
(大) 500 円 (小) 300 円 (闘牛場)
* 闘牛大会限定販売



■ 宇和島 Deep ポストカード 150 円 (即売所)



■ 兵頭俊朗 ポストカード 150 円 (シロシタ・即売所)



■ シロシタ限定 マスキングテープ (5m) 350 円 (シロシタ)



■ 畦地梅太郎「伊予の闘牛」メモ
(90×90×10 mm) 300 円 (畦地美) *紙色: ピンク・青・黄・白

■ 購入出来る場所

(即売所) **宇和島名産即売所** 宇和島市錦町 9-2 ☎ 0895-22-2718 (シロシタ) **宇和島市観光情報センター** シロシタ 宇和島市丸
(闘牛場) **宇和島市営闘牛場** 宇和島市和霊町 496-2 ☎ 0895-25-3511

■ 2025 年宇和島定期闘牛大会開催予定

・ 1月2日 ・ 5月3日 ・ 7月23日 ・ 10月26日

■ 宇和島市営闘牛場

宇和島市和霊町 496-2 ☎ 0895-25-3511

■ 宇和島闘牛公式



吉田町出身の海運王 山下亀三郎翁の思い脈々と...

2024

ご縁で繋がるふるさと宇和島コロコロまじわろうミニコンサート



(フルート)、荒井豪さん(オーボエ)、河野陽子さん(ホルン)、大森俊輔さん(ファゴット)、山内利紗さん(クラリネット)

宇和島市吉田町喜佐方出身で「吉田三傑」の一人で海運王の異名がある山下亀三郎翁が戦前、「船はいつか沈む。だが、人を育て心を育てる教育は永遠である」との教育理念の下、全国に学校を創設したうちのひとつが桐朋学園の前身となる山水中学校、山水高等女学校で、敗戦によって山水育英会は解散を余儀なくされ、一切を東京文理科大学・東京高等師範学校(のちの東京教育大学)に移管して、1947年、財団法人桐朋学園が誕生した。

同学は、指揮者で昨年2月に亡くなった小澤征爾氏をはじめ世界的に活躍する多くの音楽家や各界の第一線で活躍する優秀な人材を数多く輩出している名門で、平成30年の西日本豪雨災害で被災した吉田町を音楽で元気つけようと準備が進められていた中、新型コロナウイルス蔓延の為、中止されたが、2023年に「ご縁で繋がるふるさと宇和島コンサート」と銘打ったコンサートが開催され、大きな反響を呼んだ。

そしてこの、「ご縁を繋ごう」と関係者の努力もあって、昨年10月19日、「2024ご縁で繋がるふるさと宇和島コロコロまじわろうミニコンサート」がパフィオうわじまで開催された。



山下亀三郎、清家吉次郎の合同慰霊祭での献奏の様子



吉田町の村井幼稚園でのコンサートの様子



パフィオわじまでのコンサート終了後の集合写真



コンサートで演奏する「ふるさと宇和島クインテット」。左から、奥野由紀子さん

●奥野由紀子
フルーティスト 奥野 由紀子
オフィシャルサイト



●荒井豪
Go Arai, Oboe |
荒井 豪 Official Web Site



●大森俊輔
X



●山内利紗
Risa x Ripa music life



●桐朋学園ホームページ



今回は、桐朋学園音楽部同窓会の事務局
長で、ご縁で繋がるふるさと宇和島プロジ
エクトの実行委員長でもある椎名真紀さん
と宇和島東高等学校吹奏楽部長の酒井吟さ
ん、宇和島南中等教育学校吹奏楽部の吉井
智菜さんにご寄稿頂いたのでご覧いただ
きたい。

このコンサートには、愛媛県立宇和島東
高等学校（以下・宇東高）と同宇和島南中
等教育学校（以下・宇南高）の吹奏楽部の
学生たちも参加。学生たちは、今回演奏を
披露した音楽家によるリモートレッスンを
事前に受けてきた。そして、コンサートの
二日前、指導した演奏家と学生たちは初め
て対面での指導を受け、本番に備えた。

また、コンサート前日には、吉田町の旧
喜佐方小学校体育館で山下亀三郎生誕80年
祭と清家吉次郎没後90年祭が合同で執り行
われ、コンサート出演者による献奏が行わ
れた。その他、吉田町の村井幼稚園と津島
町岩松の小西本家離れ・蔵でもミニコンサ
ートが開催され、めったに聞けない一流の
演奏を楽しんだ。

ご縁で繋がるふるさと宇和島プロジェクトを振り返って



今回の一連のプロジェクトを取り仕切られた、桐朋学園同窓会の曾根さん(左)と椎名さん(右)

始まりはチャリティーコンサートの依頼だった。平成30(2018)年の豪雨災害で13人もの犠牲者を出した宇和島市吉田町に対し何らかの援助をしたい。ついでには音楽部門の力を借りたい。という、男子部同窓会曾根氏からの依頼だ。我々の母校である桐朋学園は男子部、女子部、音楽部門と3部門がそれぞれ独立した独自の教育を行っており、普段の学生生活での交わりは、ほとんど無いが、卒業生のべ7万人を擁する同窓会同士は横に繋がっている。財源は？人集めは？そして何より人を動かす為の動機と趣旨が必要である。私自身その時初めて、母校の前身の山水と山下亀三郎翁の関係を知り、遅ればせながら本や資料を読み漁った。

コンサートの趣旨を探る中で、亀三郎翁の故郷喜佐方への深い思いと御母堂に対する思慕と感謝の念に行きあたった。大型船が10隻も造れる大金を投じてでも母の愛情をこの世に残したいと思うその心には誠があった。それならば、その恩恵を受けた者として、その選択は正しかったということ、我々の音楽を以て誠心誠意示すべきではないかと思った。

また、種を蒔いた亀三郎翁は勿論の事、その意を汲んで山水設立に尽力された方々、戦後の窮地に桐朋と名を変えての学校存続に携わった方々、音楽の早期教育を提唱して齋藤秀雄氏等が設立した子どものための音楽教室を受け入れてくれた桐朋学園、まさに無数のご縁の繋がりによって今があるのである。こうしてコンサート名は「ご縁で繋がるふるさと宇和島コンサート」に決定



しいな まき
椎名 真紀

縁で繋がるふるさと
宇和島プロジェクト
実行委員長

トの核となるヴァイオリンの徳永二男氏やチェロの山崎伸子氏等演奏家の出演快諾を得て実現の運びとなった。

宇和島の未来である真直ぐで純粋な子ども達に音楽を届け、このご縁を更に未来へ繋げたいとの思いから、コンサートと共に力を入れたのが*アウトリーチである。2024年度は宇和島市教育委員会主催による「ココロまじわうアウトリーチ」が実現し、生徒へのリモートレッスンを通じて繋がりを深めた。この様な試みが人口流出や少子化問題解決に役に立てばと思う。また、このアウトリーチ活動に若手の演奏家が積極的に関わり、大きな牽引力となってくれた事も嬉しい収穫であった。

今回、山下亀三郎翁80年祭で献奏をした際には、参列された山下家の子孫の方々の中に亀三郎翁の姿を重ね合わせ、翁の御霊も喜んでくださったというと感じる事が出来た。

亀三郎翁の「船はいつか沈むが教育は永遠」という言葉は、まさにこのプロジェクトの根底に息づいている。そう信じて行動した人間がいるからこそ今がある。百年後に誰がこの場に立っているかは分からない。しかし、亀三郎翁の思いが受け継がれたこの活動が、教育という不沈の大型船として、百年後も洋上を悠然と航行していることを願ってやまない。

*英語の「outreach」に由来する言葉で、「外へ(out)手を伸ばす(reach)」という意味です。さまざまな分野で、必要としている人や地域に支援やサービスを提供する活動のことを指す

宇和島東高等学校吹奏楽部 部長

酒井 吟



今回、「2024ご縁で繋がるふるさと 宇和島 ココロまじわっミニコンサート」に出演させて頂きました。宇和島東高等学校吹奏楽部の部長を務めております酒井吟です。

私は、トロンボーンを担当しており、演奏会では、もう一匹の猫「クラークン」(金管八重奏版)を演奏しました。この作品を演奏するにあたり、ふるさと宇和島クインテットの河野先生にオンラインレッスンをして頂くこととなりました。オンラインレッスンを受講することは初めてだったこともあり、通信やマイク接続の問題、実際に聞く音との違いなど様々な問題が発生し、スムーズに進まなかったりしましたが、レッスンの回数を重ねるごとに内容のある活動ができ、自分やメンバーの成長を感じることができたとともに、本番のステージでは、生き生きとした音色でクラークンの堂々とした様子を表現することができました。

今回の演奏会を通して、オンラインでの音楽活動への可能性を感じることができたとともに、音楽へ向かう姿勢を見つめ直すきっかけをいただくことができました。今回学んだことを、今後の部活動に活かし、さらなる飛躍につなげていきたいと思っています。

宇和島南中等教育学校吹奏楽部

吉井 智菜



ミニコンサート本番に向けて、桐朋学園出身の先生方にZOOMでリモートレッスンを行っていただきました。私たちがフルート三重奏は奥野由紀子先生、管打八重奏は山内利紗先生に指導していただきました。

リモートで東京と宇和島が画面越しにつながったときの感動は忘れられません。リモートレッスンという初めての試みで不安なこともたくさんありましたが、技術面だけでなく表現力や曲の解釈の仕方など、具体的な指導を受けることができました。

そして、本番の2日前からは対面でレッスンをさせていただきました。吹くときの姿勢からコツまで、たくさん教えていただき、不安だった部分を自信を持って吹けるようになりました。奥野先生のフルートの音を直接聴いたとき、芯のある透き通った音と聴く人を魅了させる表現力に驚きました。ミニコンサート本番では、心に残る演奏を披露することができました。

桐朋学園の5人の先生方、今回このような機会を与えてくださった関係者の方々、本当にありがとうございました。今回の経験を生かして、様々な大会やイベントで良い音楽を演奏できるよう努力し続けます。

そして、今後も音楽を通して地域の方々につながっていききたいと思っています。これからも宇和島南中等教育学校吹奏楽部をよろしくお願いします。

山田豆腐店

中四国豆腐品評会2024木綿豆腐部門

愛媛県最高得点獲得!

宇和島市の山田豆腐店の木綿豆腐が昨年6月に香川県で開催された第8回全国豆腐品評会中国四国地大会の木綿部門で愛媛県最高得点を獲得し、全国豆腐品評会(総出品数98点63社)に出品(残念ながら入選は果たせなかった)。

山田豆腐店の木綿豆腐は、大豆の甘みが強く、鍋ものに入れると甘味と柔らかさが増す。絹ごし豆腐は、滑らかな舌触りで、こちらも大豆の風味と甘みが強い。また、手揚げの油あげは、機械揚げには真似ができない職人技で風味がよく柔らかく、蒲鉾の揚げ巻き、いなり寿司などに人気がある。



品評会の様子



品評会表彰式と同時に開催された全国豆腐サミットの様子



後継者の将洋さんに今後の事を聞くと、「とにかく、この味と店を途絶えさせないよう頑張っていこうと思っています」との事だ。

のみと言う。

現在、一明さんの後継者として息子の将洋さんが仕事を手伝っているが、旧宇和島市内で営業している豆腐店は、同店を含めて2店舗のみと言う。

昭和62(1987)年頃、

事業を引き継いだ。

代表の山田一明さんによると、同店が豆腐を作り始めたのは戦前で、まもなく創業100年を迎える老舗店だ。祖父から引き継いで豆腐を製造していた一明さんの叔父が亡くなり、叔母が引き継いでいたが、叔母も高齢になったことから昭和62(1987)年頃、



商品ラインナップ(もめん、絹ごし、うすあげ、厚あげ)



代表の一明さん(左)と後継者の将洋さん

新橋支店に 年金相談窓口ができました

「年金に関するご相談」個別にお受けします

宇和島信用金庫 新橋支店

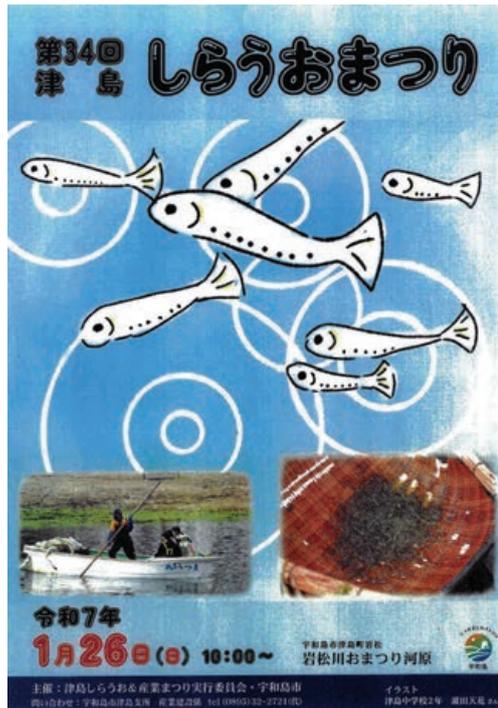
宇和島市宇和島丸之内5丁目3番1号

相談時間 月～金 / 9:30～16:00

(12:00～13:30 要相談) ※祝日・年末年始は休み

ご予約は

0895-22-1424 (営業係・窓口でも受け付けます)



- 開催日時 1月26日(日) 10:00～
- 会場 宇和島市津島町岩松 岩松川おまつり河原
- 主催 津島しらうお&産業まつり実行委員会
- 問合せ 宇和島市津島支所 産業建設係 ☎0895-32-2721

本誌連載4コマ漫画「きさいやくん」の作者「オザワヒロ」さんが 絵本「にゃん次郎と しあわせのながぐつ」を自社出版！



＜絵本の内容＞

ネコのにゃん次郎のクリスマスの夜の不思議なお話

にゃん次郎と優しい人間達との交流、そして雪の降る夜中、にゃん次郎の庭に現れた謎のジジイに、にゃん次郎は…

雪のなかでも心が暖くなるお話です、ぜひお子様への読み聞かせにどうぞ。



絵本 「にゃん次郎と しあわせのながぐつ」 発行 有限会社幸工房 定価 1,650 円 (税込)

＜購入方法＞

- ① amazon または楽天ブックスで「にゃん次郎としあわせのながぐつ」と検索し購入 (送料無料)
- ② 当社直接注文

有限会社 幸工房 FAX : 0568-86-8809 メール : mu_chan1103@icloud.com

必要事項・お名前・住所・電話・FAX(ある場合)・ご注文冊数・メールアドレス

発送方法 : レターパック

金額 : 2,100 円 (送料込み) * お申し込み時に振込先をご連絡いたします、振込手数料はご負担下さい。

特典 : 作者サインと表紙の帯をお付けします。





文ちゃんとどつぽの 予土線のあの人に会いたい10

フリーアナウンサー
おかだるみ

岡田留美さん



最寄駅は「宇和島駅」(本当は松山駅)

文/山下文子
写真/坪内政美

2023年までNHK松山放送局で勤務していた岡田さんは、何を隠そう(隠さなくてもいい)私の敬愛する元同僚だ。同僚と言つのもおこがましいほどの仕事ぶりで、取材先の話を中心に聞き、地域の人々に寄り添う報道姿勢は、まさにお手本。優しい笑顔の中に芯の強さと情愛があふれている。「18年務めましたけど、地元の良いところを伝えられるいい仕事だなと思っていました。スポーツを担当しているときには、全国各地に取材に行つて選手たちを追いかけていましたが、やりがいがない!」と思つていて、まったく苦にならなかつたですし、自分の人生を豊かにしてくれました」と振り返った。

ニュースのキャスターを務めたあとは、ラジオのパーソナリティとして活躍。そのときに出会ったのが「鉄道」だった。「ラジオを担当して2年目から始まったのが、鉄道カメラマンの坪内さんこと『どつぽさん』が出演するレギュラーコーナー【どつぽの鉄道見聞録】でした。6年間、『どつぽさん』からとてもアイディアな鉄道の話題を提供いただきました。それまでは、ただの移動手段だと思つていた鉄道が『こんなにおもしろいんだ!』と感ずるようになって、この車両に乗ってみたいとか、旅の目的にもなるんだなつて。キハとかモハとか、今では余裕でわかりますよ!」(笑)。

ラジオの収録を通じて深く関わることになったのが予土線だった。思い出深いと話すのは2019年の春。ちょうど桜が満開の季節で、ヒラヒラと花びらが舞う中を汽車が走っていた。このとき、1日で『予土線3兄弟』を完全乗車しようという企画で、私も一緒に旅をした。

「一番衝撃だったのは、『しまんトロッコ』かな。窓がないからトンネルに入るとき、すごくワクワクしました。全身で風を感じるといふか。もはや



予土線全線開通45周年のイベントでも司会を務めてくれました！

大人が楽しめるアトラクションのよう。車両も新幹線やかっぱなど、あれ乗ってこれ乗って、まるで『予土線テーマパーク』だなんて思いました！

そして、予土線全線開通45周年に続き、50周年を迎えた2024年11月のイベントでも司会を務めた。ラジオで6年間共演してきた坪内さんとの軽快なやりとりは、今も健在。地元の中高生や大物ゲストとの濃厚なシンポジウムに、加して岡田さんは感じるものがあったという。

「私は伯方島出身なんですけど、高校3年間はフェリーで今治市内に通っていたんですね。1時間半、フェリーの中で友達とおしゃべりしたり、勉強したりして楽しかった思い出があります。シンポジウムで、高校生が『予土線は青春だ』と話したの聞いたとき、私にとってはフェ



*旅の様子はこちらから→ <http://yodosen-green.com/travel/663/>



45周年では司会をしながら餅まきにも参加してもらいました

リーがそうだったんだなって思ったんです。大人になって振り返ったらフェリー通学ってすごい体験だったのかなど。あの経験は、したくてもできるもんじゃないし、フェリーや汽車があるからこそ生まれる経験というか。橋ができて、今はもう、そのフェリーはなくなってしまったんですけれど、予土線は今もあって、その大切さを学生たち本人がその価値に気がついているということがすごいと思います。若者があんなに大事に思っているんだから予土線の未来は大丈夫！なんて感じました」さらに、「予土線ってなんだか『ふるさと』みたいな雰囲気があるんですよ。私は島育ちだし、幼い頃に見た風景とかではないんですけど、なんででしょうね」と親しみをこめて話した。



50周年記念シンポジウムの控え室で記念撮影

多島美を走るフェリー。なにげない日々の中にある通学時間がいと嬉しい。それは鉄道もフェリーも同じなのだ。きっと、その時間こそが人々の心に残る青春であったり、はたまた、ふるさとそのものなのかもしれない。

現在はフリーアナウンサーとして、子育てにも奮闘する日々。岡田さんは、いつか子どもと一緒に予土線に乗りたくて機会をうかがっているという。

「沿線の色々なところにも立ち寄ってみたいし、車両も景色もいいですけど、住んでる人たちともふれあいたい!!」

予土線沿線の住民のみなさん、ぜひ岡田さんを見かけたら予土線のいいところ紹介してあげてくださいね！



山下 文子 (やました あやこ)

宇和島市出身、鬼北町育ち
予土線沿線は県をまたぐも「ザ・生活圏」。鉄道を始め、乗り物は何でも大好き。座右の銘は「その角を曲がれば、旅」(※永六輔氏のうけうり)
「四万十の鉄道 予土線」のホームページでコラムを担当



坪内 政美 (つぼうち まさみ)

スーツ姿で撮影するという奇妙なこだわりをもつ鉄道カメラマン・ロケコーディネーター。各種鉄道雑誌などを執筆する傍ら、テレビ・ラジオにも多数出演。町おこし列車「どつぼ列車」を主宰し、駅スタンプを製作・寄贈する活動を行っている
高知県予土線利用促進対策協議会アドバイザー

四万十川の
鉄道よどせん



協力：高知県予土線利用促進対策協議会

いのちのはなし グーチョコキパー 10



「みんなで楽しんでいます。男の料理教室」

文 / 毛利弘子

「お米のとき方から、始めませんか？」の、私の提案に、「おお！ ええなあ！ おもしろそうやないかな！」と、Y氏が乗ってください、和霊公民館で「男の料理教室」が誕生したのは、平成28年9月の事でした。第1回の参加者は10名、持参された奥様のエプロンや割烹着を「毛利さん、これは、どうやって着るのぞな？」という初心者から、普段から家庭で料理をされている方まで様々でした。和気あいあいと笑いの絶えないスタートになりました。この日のメニューは、「肉じゃが・ぬた・かきたま汁・ごはん」でした。野菜の切り方を図表で説明しながら、「くれぐれも、手は切らないでくださいね」と言いながら、はらはらドキドキでしたが、なんとか3品無事に出来上がりました。満足そうなお顔で試食されながら、「これは、美味しいのう。野菜の切り方も上等よ。味付けもええで」等々、みなさん大満足、そこへ私からの一言「後かたづけまでが料理ですよ。帰りには「楽しかったので、次も楽しみにしとらえ！」の感想をもらい、嬉しいスタートをきることが出来ました。初めの頃は、私一人では心許ないので、女性の*食改さんにお手伝いに入ってもらっていました。「男の人は、上達が早いなあ」など、優しく褒めながら、時には厳しく、上手に教えてもらいながらの共同作業は、楽しい地域交流の場になっていたと思います。

*宇和島市食生活改善推進協議会和霊支部

また、調理室の設計にも、みなさんが実際に使っていたからこそその意見を、たくさん取り入れてもらっています。現在の会員さんは、27名になりました。「楽しいけん、こんなと誘ってもらったんよ」、「奥さんに、あんたもいきさいやと言われてな」等々、じわじわと口コミで広がってもらっています。ひな豆や巻ぎずし等を作った時には、家庭にお持ち帰りをして、「料理の腕を上げていることのご自慢をしてください！」と、内気な男性方の背中を押しています。私のところには、奥様方から「料理教室に行き始めてから、自分が食べた食器を片づけ出したんで」「たまには習ってきた料理をしてくれるのよ」と、うれしい話も聞かえてきます。昭和の男性達の中には、面と向かって感謝の言葉を述べるのが照れくさい方もおられます。本当は日々食事を作ってもらうことに、心から感謝されていることが、私には伝わってきますので、しっかり代弁していきます。「公民館は、人が集い、学び、人と人をつなぐ場」です。地域の方々が、気軽に足を運び、いつも明るい笑い声が響いている場になるといいなあと思っています。その事業の一つに、男の料理教室があり、皆さんが笑顔で集い交流をされる輪の中に私も入れてもらっていること心から感謝しています。日々の生活から一歩踏み出せば、違った喜びや楽しみがあったり、出逢いがあるかもです。自分の可能性の発見もあるかもです。苦手な事にも、挑戦してみませんか。誰もが、今が一番若いのですから、今を楽しみましょう。心身の健康のために料理教室にも来てみませんか？お待ちしております。



毛利 弘子プロフィール

- 1952年生まれ 公立小中学校養護教諭を40年経験後 2012年定年退職
ライフワークの性教育の講演や全国大会での研究発表多数
- 受章 / 平成24年愛媛県学校保健功労賞 令和3年文部科学大臣学校保健功労賞
 - 執筆 / 「いのちのはなしグーチョコキパー」(エイデル研究所出版)
 - その他 / 和霊公民館運営審議委員・更生保護女性会副会長
 - 退職公務員連盟中央分会副会長・和霊小学校読み聞かせボランティア
 - カサヨハネ(知的障害児)放課後デイサービス非常勤講師ほか
 - 趣味 / 陶芸・登山・写真・絵手紙・歩き遍路・シーボーンアート



もうりひろこ(著)みずせきゆりえ(絵)
価格1,572円(税込)

（宇和島市）
（愛媛大学地域協働センター南予 副センター長）

おおもと たかひせ
大本敬久



1971年 八幡浜市生まれ、西予市在住。専門は民俗学・日本文化論。著書に『愛媛の民俗一冠婚葬祭編一』（愛媛県文化振興財団）。愛媛県歴史文化博物館勤務を経て、現在、愛媛大学地域協働推進機構特定准教授。



天放園で舞う八ツ鹿踊り 写真提供／北濱一男

室町、戦国時代に南予の広範囲に勢力を広げていたのは西園寺氏であったが、豊臣秀吉の四国征伐の後、戸田勝隆が津（現大洲市）を本拠に南予全域を拝領し、その後、藤堂高虎が宇和郡七万石を治めて、板島丸串城（現在の宇和島城の前身）を本拠とするに至り、南予の中心が現在の宇和島に移った。高虎が伊勢国（三重県）に転封となり、富田信高が宇和郡領主となった後、慶長二〇年（一六一五）には大坂冬の陣の戦功により伊達秀宗が領主となって、宇和島藩は明治維新まで続いた。

この伊達秀宗は、仙台の伊達政宗の長男にあたる。秀宗の宇和島入部にあたっては、約一六〇〇人に及ぶ家臣とその家族、商人、職人などが東北地方から移住したといわれる。宇和島城下町が形成される過程で、総鎮守に位置づけられたのが一宮大明神（現在の宇和津彦神社）であった。秀宗は元和四年（一六一八）に領内の古社寺を調査した上で、宇和島藩の一宮としたという。正保三年（一六四六）に社殿を焼失したが、慶安元年（一六四八）に再建され、翌二年二月には慶安芸予地震が発生して宇和島城の石垣が崩壊するなど大きな被害が出た。同年九月には神輿を出してさまざまな練り物が登場する祭礼が始まったが、これは火災、地震からの復興の意味合いもあったと推測できる。

その後、祭礼は継続され、城下町の町人

町（本町、裡町など）の氏子が牛鬼や獅子舞など各種の練り物を出した。宇和島藩領内の村浦ではこの祭礼にならって、氏神の祭りを賑やかにして、支藩の吉田藩の総鎮守立間八幡神社の祭礼にも影響を与え、吉田藩内にも浸透していく。現在、南予に広く見られる祭礼文化はここから始まり、伝播していったといえる。

鹿踊もこの祭礼の特徴の一つである。鹿踊は一人立ちで張り子製の鹿頭をかぶり、胸に鞆鼓を抱え、横縞模様の幌幕で半身を覆って踊る。一人立ちの鹿踊（シシ舞）は東北地方をはじめとする東日本に広く分布するが、西日本方面では福井県小浜地方と愛媛県南予地方周辺にのみ見られ、約九〇ヶ所で継承されている。南予の鹿踊は、仙台出身者が郷里を懐かしんで伝えられたもので、慶安二年の宇和津彦神社祭礼に登場したのが最初と言われている。仙台周辺の鹿踊と歌詞やリズム、踊り方など共通する点が多く見られ、「回れ回れ水車、遅く回って、堰に止まるな、堰に止まるな」は南予のどの鹿踊でも見られる歌詞である。

現在、宇和津彦神社祭礼では裡町一丁目为主体となり保存会を結成し、保存継承に努めている。小学生八名が踊る姿から「八ツ鹿踊り」と呼ばれ、可憐とも、繊細優美とも表現され、愛媛を代表する郷土芸能として知られている。

非アルコール性脂肪性肝疾患について

肝臓は右上腹部にある、体のなかで最も

大きな臓器です。体に必要な蛋白の合成や栄養の貯蔵、有害物質の解毒や分解、消化に必要な胆汁の合成や分泌などの大切な働きをしており、言わば体の化学工場です。

肝臓は再生能力や予備能力に優れており、痛みを感じる神経がないために慢性の炎症や障害が起きていても症状が出にくく、沈黙の臓器と言われています。肝不全の症状が出たときにはすでに病状が進行していることが多く、治療が困難な場合が少なくありません。そのため健康診断などでの早期発見が必要です。

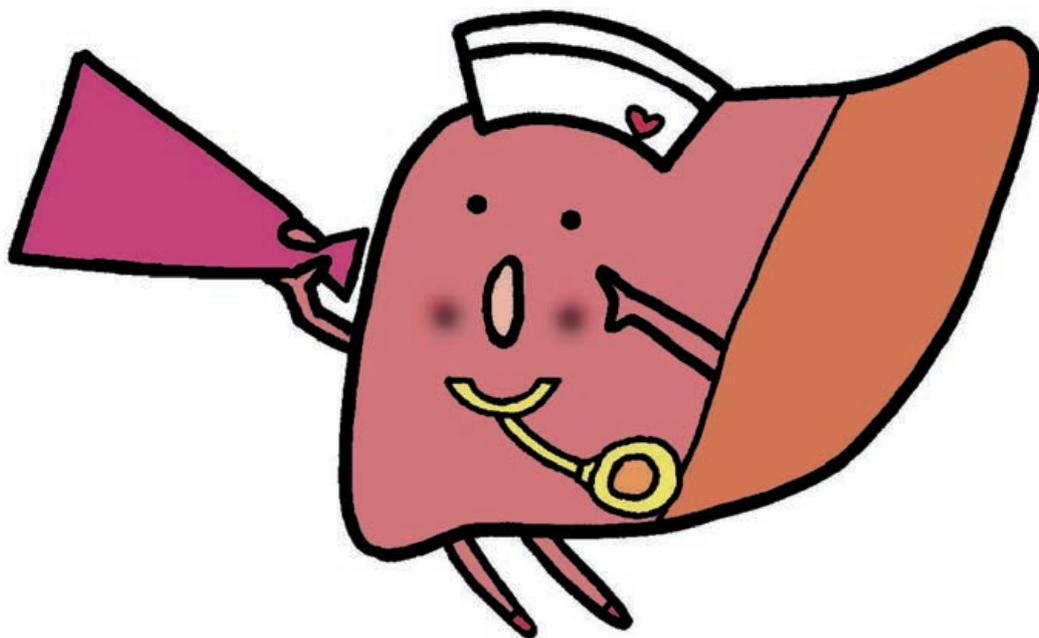
肝障害の原因としてはB型、C型肝炎ウイルスによるウイルス性肝炎やアルコール性が主でしたが、近年アルコールに依存しない脂肪性肝疾患（NAFLD：ナッフルディー）が増えており、有病率は9〜30%と報告されています。その主な原因は過食・運動不足・肥満などの生活習慣の乱れによるものです。摂取エネルギーが消費エネルギーを上回る、余分なエネルギーが脂肪として肝臓に蓄積され、脂肪肝になります。その一

部の方は炎症を起こし線維化が進行する非アルコール性脂肪肝炎（NASH：ナッシュ）と呼ばれる状態になります。その状態でもほとんど症状はありません。そしてNASHの一部は肝硬変や肝臓がんに移行します。

診断は血液検査である程度の推測はできますが、確定診断まではできません。超音波やCT検査などの画像診断、場合によっては生検も必要になります。

NAFLD/NASHに対する薬物の開発が行われていますが、残念ながら現時点では保険適用されている薬剤はありません。NAFLD/NASHと診断されたら食習慣や運動、睡眠など生活習慣を改善することが最大の治療になります。肥満のある方は減量が効果的です。糖尿病、脂質異常症、高血圧のある方はその治療も大切です。そして何よりも早期発見が重要です。健康診断で肝機能障害が指摘された場合、症状がなくても放置せず、医療機関で精査をしましょう。

2024/8よりNAFLDは代謝異常関連脂肪性肝疾患（MASLD、マッスルディー）、NASHは代謝異常関連脂肪肝炎（MASH、マッシュ）に変更となりました。



沖内科クリニック
副院長 沖 良隆

食めぐり

美味しさを彩る「食器」

昭和後期、経済が高度成長する中、食生活はとも豊かになりました。その頃、各家庭の食器棚には、ぎつしりと器が並び、献立に合わせて美しく「盛りつけ」することが食の基本とされていました。また、食器は財産的な価値も持ち、大切に取り扱いわれていたことを記憶しています。しかし、最近では、忙しい生活のなか惣菜や冷凍食品等が普及したこともあり、「そのまま食卓に運べる」手軽さが重視されるようになってきました。それに伴い、「食を彩る」意識も薄れてきたように感じられます。

- ・食器を使う利点は、
- ・料理の温度を逃がしにくい
- ・持ちやすい大き目で食べやすい
- ・食事を華やかに見せる

(美味しく感じさせる)

などがあげられますが、この他に「栄養を整える」効果もあると思います。主食、主菜、副菜を、それぞれの器に彩りよく盛りつけることにより、食べる全体量や野菜の摂取量が確認でき、自然にバランスのよい食事となります。

私も高齢期が近づいてきて時間に余裕ができたことから、様々な器を楽しみながら料理をすることが多くなってきました。

今回ご紹介するレシピは、宇和島の郷土料理である「ふくめん」を、簡単に作れるようにアレンジしたものです。「ふくめん」は、その名のとおり薬味が料理全体を覆っていることから「覆面(ふくめん)」の名がついたと言われています。細く切ったこんにゃくを「ねぎ」「みかんの皮(陳皮)」「魚のそぼろ」で華やかに覆い、お祝いの席などの鉢盛料理でふるまわれていました。身近な食材を使って豪華にもてなした、昔の知恵が生んだ真心のこもった料理だと思えます。主に使われるこんにゃくはカロリーが殆どなく、食物繊維、カルシウム、カリウムに富んだヘルシーな食材です。栄養面においても、生活習慣病が増加した現代に通じる料理だと言えるでしょう。

今回ご紹介するレシピは、宇和島の郷土料理である「ふくめん」を、簡単に作れるようにアレンジしたものです。「ふくめん」は、その名のとおり薬味が料理全体を覆っていることから「覆面(ふくめん)」の名がついたと言われています。細く切ったこんにゃくを「ねぎ」「みかんの皮(陳皮)」「魚のそぼろ」で華やかに覆い、お祝いの席などの鉢盛料理でふるまわれていました。身近な食材を使って豪華にもてなした、昔の知恵が生んだ真心のこもった料理だと思えます。主に使われるこんにゃくはカロリーが殆どなく、食物繊維、カルシウム、カリウムに富んだヘルシーな食材です。栄養面においても、生活習慣病が増加した現代に通じる料理だと言えるでしょう。



料理写真の器を作ってくださったのは、宇和島市の「社会福祉法人 八つ鹿会 八つ鹿工房」さんです。



八つ鹿工房
ホームページ

彩ふくめん



(材 料) 4人分

糸こんにゃく・・・3袋(480g)

- A
- しょうゆ・・・大さじ1
 - 酒・・・大さじ1
 - 砂糖・・・大さじ2
 - 塩・・・少々

鶏ミンチ肉・・・100g

- B
- しょうゆ・・・大さじ1/2
 - 酒・・・大さじ1/2
 - 砂糖・・・大さじ1/2

ツナ缶詰・・・小1缶(55g)

(※ノンオイルタイプ)

白ごま・・・大さじ1

- C
- しょうゆ・・・小さじ1
 - 酒・・・小さじ1
 - 砂糖・・・小さじ1

- ねぎ・・・適宜
- みかんの皮・・・適宜
- 桜でんぶ・・・適宜
- ごま油・・・少々

(作り方)

- ①糸こんにゃくは食べやすい長さに切り、鍋に入れてかき混ぜながら加熱して水気をとばす。Aの調味料を加えてさらに炒りつけ、汁気がなくなったら皿に平たく盛る。
- ②フライパンにごま油を熱し、鶏ミンチ肉を炒め、B調味料で味をつける。
(※数本の箸を束ね、それでかき混ぜながらそぼろ状に炒める)
- ③鍋に汁気をきったツナ缶、白ごま、C調味料を入れて加熱し、かき混ぜながら汁気がなくなるまで炒りつける。
- ④ねぎは、緑の部分の小口切りにする。
- ⑤みかんの皮は、裏の白い部分を包丁でそぎ取り、細かいみじん切りにする。(※オレンジ色の部分だけ使う)
- ⑥①の糸こんにゃくの上に、②～⑤と桜でんぶを彩りよく盛り合わせる。(※菜箸で仕切りながら盛りつけるとよい)



和田 広美

管理栄養士
柑橘ソムリエ
シーフードマイスター
愛媛大学地域再生マネージャー

お気楽 俳句

歩けなくても外出できなくても俳句は詠める・・・今年も「おうちde俳句大賞」の募集が始まっています。「おうち 俳句大賞」と検索してください。授賞式のYouTubeもとても面白いですよ。
* 右が第五回、左が第六回の優秀句。太字は大賞句、色文字は季語。

☆リビング部門

骨壺と並んで相撲見る炬燵

小川野電鬼

双六の母のスピード離婚かな

いかちゃん

☆台所部門

乳あたへて頭からつぼのバナナ

島田雪灯

夕焼も義母に漂白されるまま

立石神流

☆寝室部門

どんな夜も電気毛布が待っている

月野うさぎ

子らの狭間二十センチに**春眠**す

うく

☆玄関部門

お札貼った**柵**挿した塩盛った

吉野川

救急隊の蹴飛ばしていつた**白靴**

高橋寅次

☆風呂部門

家事代行おとおと洩らせる**黴**の風呂

山本先生

良き日かな**髪を洗えた**ただけけど

帝菜

☆トイレ部門

冬帝が先に便座に座ってる

阿部八富利

経血赫し**仙人掌**のいびつな徒長

常磐はぜ

☆ひきこもごも部門 特別賞

ああ外は雪かと壁へつぶやいて

藍創千悠子

母剥きし**林檎**ザムザのやうに食ふ

真井とうか

深呼吸ローソクに集つ**流星**

しいか

【参考】「夏井いつきのおうちde俳句くらぶ」
<https://ouchidehaiku.com/>

構成：小野更紗

1987年より宇和島市在住 息子の俳句甲子園出場を機に俳句を始める
いつき組 じゃこ天句会（毎月第2金曜7時より鶴島公民館）



おうち de 俳句大賞



*てがう：ちよっかいをだす

絵：律川エレキ

1966年宇和島市生まれ 奈良市在住
2000年頃より俳句新聞や雑誌「100年俳句計画」等に挿絵を描く。映像作家 俳号大塚桃ライス

おすすめの本

「つらい痛みは漢方で治す」

鎌野俊彦（宇和島市 鎌野病院理事長）：著
幻冬舎（2024年9月刊）1,760円（税込）

先生は、1984年3月に整形外科医院を開業以来、西洋医学療法に東洋医学（鍼・漢方）を取り入れた治療を続けている。

これまでの診療経験を基に、慢性病に悩む多くの人に漢方の力をもっと知ってもらいたいと執筆。

頭痛・腰痛・肩こりなど、症状別に薬の種類や処方する手順を詳しく解説している。

人生100年とも言われる時代、日ごろからの体調管理の中で新しい選択肢を教えてもらえる1冊です。



協力：岩崎書店 宇和島市錦町4-16 TEL.0895-22-0528



■アトリエ堀端絵画教室 (べにばら画廊) <https://benibara.webhop.info/>

宇和島市本町追手 2-8-6 TEL. 0895-22-1104 コメント: 吉田 淳治



作品名:『古いスタンド』(油彩)
作者:古島紫折(大人クラス)

43年目、この教室に通われる最古参キャンパスを前にした長い長い年月淡々と集中し、ままの目で対象を捉える季節はめぐり、齢(よわい)を重ねても今なお、古島さんの絵は瑞々しい



作品名:『惑星』(水彩)
作者:島田来愛(子どもクラス)

宇宙の不思議、宇宙への憧れ光の波に浮かぶ赤い惑星点々と瞬く影色の星たち果てのない広がりを表す筆の勢い思うままスラスラ描いた、らいらちゃん



作品名:『愛媛県小学生選手権』(水彩)
作者:清家爽晶(子どもクラス)

5コースのさらちゃん、スタートだ!泳ぐ泳ぐクロール50m自己ベスト達成!そのうれしさを鳥瞰図で描いてみた丁寧に丁寧に記憶を呼び起こすプールサイド、水の動き、水中の感触も



■アトリエぱれっと <https://art-palette.wixsite.com/mysite>

宇和島市伊吹町甲 1083-1 2F TEL.090-7784-4703 yuka@art-palette.com コメント: 清家由佳



作品名:『あなたみたい』(青ペン)
作者:六田誠人(高3)

ブルーの幾何学的な形は小さな小さな文字で埋め尽くされて描かれているのです!六ちゃんはアトリエに誰よりも早く来て絵を描き始めます。この才能と努力によって目覚ましい成長をしている六ちゃん!これからも目が離せません!!



作品名:『迎春』(油絵)
作者:三浦八重子

クリスマスやお正月に合わせた作品を描きたいと、イメージされました。様々な混合技法を用いて完成した作品です。制作にも現状に満足することなく常に新しい工夫とチャレンジを忘れない三浦さんの姿勢にいつも感心するばかりです!



作品名:『はるか』(油絵)
作者:節安ルイ子

柑橘の瑞々しさと、光の透けたところを描かれました。節安さんはいつもモチーフとじっくり向き合いそのものの美しさや心惹かれるところを感じとり表現を追求されます。なので節安さんの絵はどんなに小さい作品でも存在感を感じます。



トータルリペア二宮 代表取締役 二宮 浩旭

「～ リペアでEco!! お客様へ感動と笑顔のご提供～」

「使い捨て社会」から
「循環型社会」への
お手伝い

弊社は、2021年より創業
し、住宅関連全般や家具などを中
心に、あらゆる製品やのりペア（修
理・補修）サービスを提供する事業
を通じ、「使い捨て社会」から「循環
型社会」へのお手伝いをすることで、
持続可能な社会の実現に取り組むこ
とを目指しています。

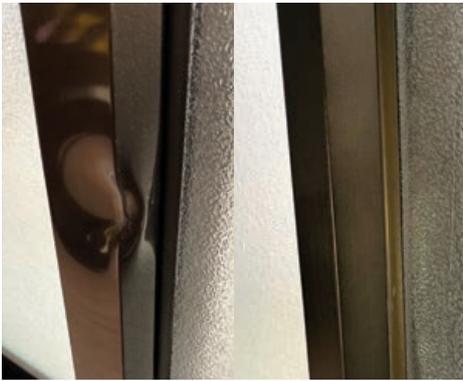
経済の成長にもなつて大量生産
・大量消費が生んだ使い捨ての時代
から、環境負荷を軽減し循環型の世
界へのシフトが求められており、微
力ながら、その一翼を担う会社であ
りたいとの思いから、この事業を始
めました。

リペア（補修）や修理と聞くとイ
メージ的にマイナス方向に考えがち
ですが、リペア業は外観を美しく復
元すること以外に修理を施すことで
使ってきた大切なモノに込められた
思い出や価値を守るというメリッ
トや、経年劣化の場合においては再生
を施すことで外観の復元を行い取り
換えの費用や時間を短縮できるメリ
ットもあります。

リペア作業は、決して単純作業で
はなく、高度な専門知識と器用さが
求められる「職人技」でもあります。
そのため、ひとつの傷に対して、そ

の素材に適した材料の選定や補修後
の強度、リペア箇所の美観継続期間
など様々な角度から最適な方法でリ
ペアを行わなければならないため、
日々の研究や技術向上のためサンプ
ルを使つての練習も必要となります。
またまた技術の発展途上の部分も
あり、対応できないことも多いのも

現状です。そのため、今後
は、新しい素材に対応でき
る技術の確立や急な依頼で
もすぐに対応できるようにす
るためにリペアマンの育成な
どにチャレンジし、地域社会へ
の貢献へ繋げていきたいと考えてい
ます。



リペア前 → リペア後
(アルミサッシの凹み)



リペア前 → リペア後
(石の割れ)

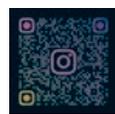


リペア前 → リペア後
(フローリングの剥がれ)



リペア前 → リペア後
(ドアのネジの穴)

トータルリペア二宮 〒798-0038 宇和島市丸穂甲 1064-11
TEL : 070-5270-6912 Mail : totalrepair.5490.ninomiya@gmail.com



Instagram



ホームページ



うわしん「南予活性化若手経営塾」とは、宇和島信用金庫において1年間、南予地域の産業活性化をはかるために
創業者や2代目、3代目の若手経営者を育成し、企業経営体質の健全化・成長のためのセミナー・個別指導・異業
種交流等をおこなっていて、地域内の中小企業の経営レベルを向上させる目的で開講されています。

うわしん LINE 公式アカウント はじめました！

LINE

各種商品情報、便利なサービスのご案内、
「情報誌つなぐ」バックナンバー閲覧などなど



「つなぐ」は、こちらでどうぞ。

● 宇和島市（本庁、津島支所、吉田支所、三間支所、中央図書館、吉田図書館、中央図書館津島分館、生涯学習センター、パフィオうわじま、市立宇和島病院、伊達博物館、畦地梅太郎記念美術館、歴史資料館） ● きさいや広場 ● 道の駅みま ● シロシタ ● 宇和島商工会議所 ● 南楽園 ● かどや（駅前本店・弁天町店・味奈味） ● ハイウェイレストラン宇和島 ● 和日輔 ● 福 DON ● 盛運汽船 ● 岩崎書店 ● 木屋旅館 ● はまゆう薬局 ● ひまわり薬局 ● JR宇和島駅 ● JR松山駅 ● 小野商店（津島） ● 安藤コーヒー ● べにばら画廊 ● アトリエぱれっと ● 香川・愛媛 せとうち旬彩館（東京） ● 宇和島信用金庫各支店 他
「つなぐ」の発行は、新春号（1月）、春号（4月）、夏号（7月）、秋号（10月）です。 ※「宇和島クラブ」協賛業者

